

考え実践する市民やグループを育成し、ゴミの減量化など、市民意識の高揚を図ります。

- ④ 誰もが安心な地域交通システムをつくる
- ⑤ 双方方向の情報通信基盤をつくる
- ⑥ にぎわいの市街地をつくる

農林業の振興に関しては、認定農業者や新規就農者、林業従事者の育成支援、安全安心な農産物の生産、地元産材の活用を図るなど、南丹市ならではの地産地消の推進と支援により、さまざまな「南丹ブランド」を確立。「ほんまもん」をつくる取り組みを推進し、農産産出額の増加を図ります。

市内を結び、さらに近郊の都市圏とのアクセスを強化する道路網整備は、暮らしの利便性や地域発展の重要な柱です。安全で快適な道づくりのため、国・府道改修や機能強化への働きかけを一層強めるとともに、地域実情に応じた市道・農道・広域林道などの計画的な整備を行います。

さらに誰もが安心して利用できる公共交通、JR山陰線の複線化と接続ダイヤの利便

### 第3章 人物・情報を高度につなげる

- ① 高速移動の網を広げる
- ② 鉄道をさらに便利にする
- ③ 安全で快適な主要道路でつなぐ



▲八木町地内でのJR複線化工事



▲供用を開始した都市計画道路（園部町美園町）

性向上に努め、利用者数の増加を図ります。

また、情報基盤整備の分野では、現在、整備中の光ファイバーネットワーク網を基盤として、CATVやインターネットサービスを提供し、併せて南丹市情報センターの自主制作番組を充実することで、CATVの利用者を増やし、身近な情報の提供や住民相互の交流を図ります。

にぎわいのまちづくり施策としては、都市計画の推進と魅力ある商業集積による本市の中心市街地の整備促進を図るとともに、そのほかの地域においては地域ごとの住民の暮らしに必要な商業などの育

### 第4章 共に担うまちづくりの仕組みを築く

成支援を進め、地域拠点整備を図り、人が集い、行き交う街づくりを進めます。

- ① 共に生きるまちづくりを進める
- ② 住民自治の地域づくりを進める
- ③ 多様な担い手のパートナーシップを育てる
- ④ 大学等と連携し、ともにまちをつくる
- ⑤ 未来を担う人づくりを進める
- ⑥ 行財政改革を推進する



▲明治鍼灸大学による公開講座

全ての市民一人ひとりの人権が尊重される地域づくりや、男女共同参画の社会づくりを進めるため、市民相談体制の充実を図るとともに、学ぶ活動に参加する市民を増やし、啓発や支援の取り組みを進めます。

また、地域のことを地域が決めて実行する地域自治組織の設立を目指して、市民とともに検討を進めていきます。

市民との協働の考えを基本にした「住民参加条例」の制定など、協働と市民参画のための仕組みづくりを探ります。そして各種団体やボランティア、NPOなどの協働を進める公共事業の多様な手



▲大堰川河川敷の清掃をする「ECOレンジャーやぎっ子隊」